

プロジェクト型デザイン教育の変遷 2007-2022

The transition of Project Education for Design from 2007 to 2022

生活環境デザイン学科

青木 幹太

Kanta Aoki

1. はじめに

本研究は、筆者が2003年に本学に着任後2021年まで取り組んできたプロジェクト型デザイン教育について、日本デザイン学会、芸術学会の研究発表や活動中に記録した写真、書類、スケッチなどの資料を参考に変遷過程をロードマップにまとめ、プロジェクト型デザイン教育をどのように展開したのか、展開の要因になったものは何だったのかなどを中心に論述したものである。

2. プロジェクト活動のきっかけ

2003年4月、本学芸術学部デザイン学科に着任し、プロダクトデザインの研究・教育に当たることになるが、当初、産学連携などをデザイン教育に適用する考えはなかった。ただ着任前から本学が掲げる建学の理想「産学一如」について、デザイン研究・教育を通して具体的なカタチにしたいという願望は持っていた。

2004年4月、福岡市に本社がある株式会社 NIKKENの依頼で、会社の主力商品であるパイオチェアの次期モデルのデザインを依頼され、研究室に所属する3年生の授業外活動として、企業の現場の製品開発プロセスに沿って、現状調査から情報収集、コンセプト設定、アイデア展開、プロトタイプモデル制作に取り組み、依頼先に出向いて学生が最終デザイン案のプレゼンテーションを行った。この活動に参加した学生と複数のデザインコンペティションを授業外課題とした2名の学生が、翌年の就職活動でトヨタ紡織株式会社、トヨタ車体株式会社という大手企業のプロダクトデザイナーに採用が決まったことから、授業と並行して実践的なデザイン教育を行う効果を実感し、その後、産学連携などをプロダクトデザイン教育

に積極的に取り入れるきっかけとなった。

3. 産学連携や学部連携のきっかけ

プロジェクト活動を始めた2005年頃は、現在のように産学連携等を推進する「産学連携支援室」や「学外連携課」などの学内支援組織はなく、「人との出会い」が始めるきっかけとなった。

(1) 博多織プロジェクトの始まり

本学に赴任した翌年、芸術学部の卒展（福岡市美術館で開催）で会場管理のため展示室に立っているとき、男性からある展示の内容について質問を受けた。その作品は私が指導した学生のものでなかったことから、後日、回答することで了承していただき、制作した学生から質問の回答を聞いて書面でお送りした。その後、この男性からお礼の電話があり、一度、会社見学に来ないかと誘われた。会社は筑紫野市にある博多織の会社で、この方はそこの社長であった。博多織は福岡の伝統的工芸品であることは知っていたが、まったく馴染みがない分野で、工場やショールームを案内され、その精緻さや奥深さに興味を持ったことを覚えている。その後、この方から博多織工業組合が博多織の手織り職人の育成を目的に2006年に開校した「博多織デベロップメントカレッジ」で、デザインの授業を担当して欲しいという依頼があり、これをきっかけに博多織との関係が生まれた。

博多織の産学連携では、既製品の博多織帯を使ったバッグデザイン、学生たちが織ったオリジナルの博多織の生地を使った雑貨デザイン、新商品のための帯柄のデザインなどを手掛け、連携先からも高い評価を頂いた。

博多織の連携活動は、関係者を通じて博多人形の企業に伝わり、2012年度から博多人形の商品

デザインを行う博多人形プロジェクトがスタートし、既存の博多人形の色・柄デザインやDIY商品、G20などのイベント向けのデザイン、本学来賓への贈り物など、幅広い活動に展開している。博多人形の連携先企業のショールームで展示・販売されているガラス工芸品を製造しているのが宗像市のガラス工房で、その繋がりから2012年度より宗像プロジェクトがスタートしている。このように産学連携の多くは、「人との出会い」から始まり「口コミ」で広がっていった。振り返ると、地域や地域企業にはプロダクトデザインの考え方や方法、技術に対する需要が潜在しており、本学の役割としてこのような需要や要望に応じていくことは産学一如の具現化に繋がると考えている。

(2) 理工学部との連携プロジェクトの始まり

産学連携が「人との出会い」から始まったように、理工学部（当時の工学部）との学部連携も人との出会いから始まった。2006年の卒展（学内展）で展示会場で来場者対応を行っているとき、工学部バイオロボティクス学科の榊教授が見学に来られそこで初めてお会いし、「芸術と工学で組んで何か面白いことを始めましょう」という立ち話をした。その後、榊教授から一般社団法人日本機械学会が主催するロボ・メカデザインコンペに、プロダクトデザインとバイオロボティクス学科の学生でチームを組み、企画提案をしないかという相談があり、2007年から学部横断の学生チームの活動が始まった。ロボメカ・デザインコンペの活動は、ロボット開発における芸術と工学の融合の必要性の認識を広げ、2012年より学部連携授業として「テクノアートプロジェクト」がスタートし、現在ではプロジェクト型教育を代表する活動になっている。

ロボメカ・デザインコンペの活動が始まる以前、筆者は1980年から1982年まで勤務した総合せき損センター医用工学研究室と連携して起立・歩行訓練器の共同研究を実施していたが、その活動にも2009年から榊先生や工学系の先生方が参加するようになり、介護・福祉ロボットの総合的な研究が進展し、2013年にはヒューマン・ロボ

ティクス研究センター（HRRC）が開設されることになる。このような理工学部との関係は、ロボット開発にとどまらず、工学部の寺西教授との連携では交益社団法人自動車技術会が主催する学生フォーミュラ大会出場を目標にしたフォーミュラカーの開発、2007年から工学部のパンフレット制作をプロダクトデザインで受注し、学生のアルバイトとグラフィックデザインのスキル向上に生かすことができた。

このように多くの学部連携は、「人との出会い（立ち話）」から始まり、芸術と工学の融合によるロボットや自動車の開発という分野を広げ、自動車開発ではその後、カーデザイナーとして自動車業界に人材を送り込むことに繋がっている。

4. 行政との関わり

福岡の伝統工芸品である博多織や博多人形の産学連携活動は、福岡市の担当部門の知るところとなり、2014年に担当部門の課長から面談を求められ、大学で福岡の伝統工芸や産業振興について意見を求められた。どのような話をしたのか今では覚えていないが、その後、福岡市が主催する展示会でプロジェクトの成果を展示・公開したり、福岡市が主催する会議に招ばれるなど、行政との関わりが進んでいった。2016年には福岡市が後援する「福岡伝統職の会」との商品デザインに関するプロジェクトが始まり、博多独楽や博多張子、博多曲物などの工房、職人と学生との連携によって、新しい感性や視点から従来の枠組みから外れた商品が生まれている。また2019年には、福岡市で開催されたG20財務大臣・中央銀行総裁会議で、福岡市と博多人形共同組合、大学による産学官連携で制作したお福人形が会場に展示されている。

行政との関わりは、福岡市から福岡県に広がり、福岡県内の中小企業等の研究開発や人材育成、技術相談等を行う福岡県工業技術センター（インテリア研究所）から依頼を受け、2011年より「デザインプラシユアアップ講座」がスタートする。この活動は県内の中小企業を対象に、それぞれの企

業が直面するデザインに関する課題を洗い出し、その解決策を導く活動で、2013年までは座学中心だったが、2014年より参加企業を絞り、参加企業から提示されるデザイン課題を実践を通して解決する演習に変更し、その活動に学生が参加している。この活動の中から、未来のドアやCLT材の活用、久留米織ポンチョや高取焼の器など新しい商品の開発事例が生まれている。県が主催したデザインブラッシュアップ講座には、協同組合福岡・大川家具工業会の加盟企業が参加し、その関係から2012年に工業会設立50周年記念事業として始まった、大川家具の企業と大学による産学連携プロジェクトが今日まで継続しており、その活動を通して新商品が開発され、また多くの学生が家具デザイナーとして大川の家具メーカーに就職している。

5. プロジェクト活動の広がり

産学連携の中で、本学からアプローチしたのはが株式会社ムーンスターとのシューズデザインプロジェクトである。2006年の卒業研究で靴のデザインをテーマにした学生がいて、人の足や歩行など専門性のある分野のため、ムーンスターにアポイントを取り、学生と一緒に話を聞きに伺った。その際、担当者から何でも助言するので相談していいという話になり、急遽、靴のデザインに関心のある学生を集めて、コンセプト立案からアイデア展開までをムーンスターに持ち込み、プレゼンテーションを行った。その内容が高く評価され、学生アイデアの中から6足の試作が決まり、それ以降、産学連携プロジェクトとして毎年活動するようになり、2010年には学生デザインの子供靴が商品化され、プロジェクト参加学生がムーンスターに就職するなど、当初の想定を超えた成果を生んだプロジェクトである。

このほか産学連携プロジェクトでは、2011年から2012年には筑後市にある宮田織物株式会社と久留米織の半纏の商品デザイン、2009年から2011年には株式会社ブラッツと電動介護ベッドの商品開発、2011年から2013年には有限会社

ハーバルサンケイと天然果汁のラベルデザインやブランドデザインなどを実施している。

また地域支援プロジェクトでは、2016年に久留米市からの依頼で石橋文化センターアートフェスティバルに参加し、学生たちと木製の動物をモチーフにした造形物を制作し、文化センターの憩いの森で展示、2018年から2020年には福岡市と長住大通り商店街との産学官連携プロジェクトで、当該地域のブランド力向上を目的としたマルシェの開催など、プロダクトデザインの持っているデザイン思考の考え方を応用した取り組みを展開している。

地域企業との産学連携や他学部との学部連携などの強みをフルに活用した活動が、希望のあかりプロジェクトである。これは2011年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、何かできることはないかと悩んでいるときに、福岡在住で青森県の無形文化財「ねぶた」制作の第一人者の三上真輝氏（青森県出身）から、「ねぶた」による被災地支援活動への協力を相談され、ロボット開発等を共同で進めていた工学部の榊教授と受諾した。その後、参加希望の学生を集め、夏季休業の期間、三上氏からねぶた制作の指導を受け、東北地方の民話で一般的によく知られている「さる蟹合戦」を題材に選び、芸術と工学が連携して巨大なねぶたを制作した。この活動には福岡および大分の企業等から支援の申し出があり、現地（岩手県陸前高田市）に運び込む前に、日田市の「千年あかり」や福岡銀行主催の「絆—みんなに想いを伝えよう—」などで支援イベントを実施した。現地では幼稚園や特別養護老人ホームなどの巡回し、多くの人たちに笑顔を届けることになった。希望のあかりプロジェクトはその後も活動を続け、2013年夏には陸前高田市米崎中学校仮設住宅の皆さんと学生たちが、米崎の名産「りんご」をねぶたにして、盆踊りの際に会場や仮設住宅の軒下を優しく照らすことができた。この活動を通して知り合った方々との今日でも交流を続けている。

6. プロジェクト活動の公開

プロジェクト活動の公開は、2009年2月に博多織プロジェクトの成果を本学の円形ギャラリーで展示・公開したことから始まった。展示会名の「絹鳴」は、博多織の帯を締める時に、絹が擦れて鳴る「キュッキュッ」という独特の音、絹鳴から引用した。この活動は当時の芸術学部3学科(美術・デザイン・写真学科)と博多織企業との産学連携であり、筆者が非常勤を務める博多織デベロップメントカレッジの学生も参加した。第1回絹鳴展は、3学科が協調しながらも独自に捉えた博多織の表現であり、手作り感に溢れた展示会であった。指導に当たった教員は、展示会がプロジェクト参加学生の発表の場として、教育効果の高いイベントになるという認識を共有した。

翌年の博多織プロジェクトは、新たに教員や企業が参加し、筆者の担当でも博多織バッグや帯などが商品化されるなど活動レベルが上がってきたことから、展示会場を学外に移し、2009年度は、同年10月にNHKギャラリーでの中間展示、3月に福岡アジア美術館での最終展示を行い、翌2010年度は、同年10月にアクロス福岡での中間展示、3月に九州国立博物館で展示・公開した。3年間の博多織プロモーション活動は、参加する学生や企業が年々増え、4年目の2011年度は初めて商業施設(アミュプラザ博多)で展示を実施し、それまで以上に多くの方々にご覧いただくことができた。翌2012年度は、天神イムズ地下2Fイムズプラザで開催し、展示会名も博多織プロモーションから地域産業プロモーションに変更し、活動内容の広がりに対応した。

2009年度から始めた絹鳴展は、展示の範囲が博多織を中心にした伝統工芸に重きを置いたため、それらとは別に、同時期に取り組んでいたシューズデザインや大川プロジェクト、ロボット開発などの成果発表の場として、2011年度から「プロジェクト展」を開催するようになる。2012年3月、2013年3月にアクロス福岡で、2014年3月にJR博多シティ3F改札口フリースペースで開催した。2015年度は、「地域産業プロモーション展」と

「プロジェクト展」を合体し、「九産大プロデュース展」として本学が推進するプロジェクト型教育のプロモーションを目的に、プロジェクト活動全般の展示・公開を行うようになる。

九産大プロデュース展では、建学の理想「産学一如」を押し進める狙いから、2015年度より産学連携から生まれた商品の原種を販売する「KSU ショップ」を併設し、商品の評価を市場に委ねるとともに、KSUショップの運営を学生に任せ、デザインと市場の関係を実務体験を通して理解し、多様な視点でデザインワークに取り組む能力の向上を図った。

7. まとめ

本研究では、筆者が2003年に本学に着任後、2021年まで取り組んできたプロジェクト型デザイン教育を振り返り、ロードマップを作成して、展開の背景や要因について論述した。筆者は2024年3月で本学を退職することから、プロジェクト活動や産学一如にどのように取り組み、その原点はなんだったのか意思表示をしたいという思いから、着任以降のプロジェクト活動を振り返った。その結果、多くの活動の始まりは、「人との出会い」であることが分かった。

企業から大学に着任して間もなく、デザインコンペティションを授業外課題にした学生に、スーツとネクタイスタイルの教員が、上から目線で熱心にアドバイスをしているとき、その学生が突然泣き出し、何が起きたか皆目かわからない教員に対して、「このデザインは私ではありません」と言った言葉は衝撃的であった。それ以降、ネクタイを外しスーツからカジュアルスタイルに変え、学生目線の教育とは何かを学びながら、学生の自主性を尊重する産学一如の教育スタイルを追求してきたが、その答えはまだ臆げである。ただ20年間、やりたいことを自由にやらせていただいた大学、学生・教職員の皆様、学外の皆様にご心から感謝し、本研究を締めたいと思う。

参考文献

- 1) 青木幹太, 平田義典, 柴田篤史, 永田真弓, 木村伸夫: 産学連携によるチャイルドシューズのデザイン開発, 日本デザイン学会第57回春季研究発表大会概要集, 日本デザイン学会, p208-209, 2010
- 2) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 坂本浩, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: 博多織プロモーション計画3 (3), 日本デザイン学会第58回春季研究発表大会概要集, 日本デザイン学会, p240-241, 2011
- 3) 青木幹太, 松永圭五: 地域企業との連携による介護用電動ベッドの製品デザイン, 日本デザイン学会第59回春季研究発表大会概要集, 日本デザイン学会, p398-399, 2012
- 4) 青木幹太, 榊泰輔, 間間理, 三上真輝: ねぶたによる東日本大震災の被災地支援活動, 日本デザイン学会第60回春季研究発表大会概要集, 日本デザイン学会, p210-211, 2013
- 5) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の実践—地域産業プロモーションを事例として—, 日本デザイン学会第61回春季研究発表大会概要集, p50-51, 2014
- 6) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の実践—大川家具工業会との産学連携活動の推移とその成果—, 日本デザイン学会第62回春季研究発表大会概要集, p348-349, 2015
- 7) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の実践—宗像エリアのデザイン支援活動—, 日本デザイン学会第63回春季研究発表大会概要集, p316-317, 2016
- 8) 青木幹太, 榊泰輔, 田代雄大: プロジェクト型デザイン教育の実践—福祉・介護ロボットの研究・開発を事例として—, 日本デザイン学会第64回春季研究発表大会概要集, p92-93, 2017
- 9) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の方法—プロジェクト型デザイン教育の導入期の方法論的特徴—, 日本デザイン学会第65回春季研究発表大会概要集, p88-89, 2018
- 10) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の展開の要因, 日本デザイン学会第66回春季研究発表大会概要集, p242-243, 2019
- 11) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の形成要因, 日本デザイン学会第67回春季研究発表大会概要集, 2020
- 12) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の実践, 日本デザイン学会第69回春季研究発表大会概要集, p8C-02, 2022
- 13) 青木幹太: 家具産地・大川との商品開発を目的とした連携活動, デザイン学研究特集号「家具のデザインと技術」, 日本デザイン学会, Vol.27-1, p106-115, 2019
- 14) 青木幹太: コラボレーション手法による実践的なデザイン教育プログラムの展開, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第40巻, p93-104, 2009
- 15) 青木幹太, 佐藤佳代, 若松布美子, 斉藤光範: 博多織の振興を目的とした芸術学部の学科横断プロジェクト, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第41巻, p85-91, 2010
- 16) 青木幹太: デザイン実習に産学連携プログラムを導入した効果, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第42巻, p109-115, 2011
- 17) 青木幹太: 電動介護ベッドのユーザビリティ・デザイン, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第42巻, p117-122, 2011
- 18) 青木幹太: コラボレーション手法によるデザイン教育プログラムの展開, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第44巻, p57-64, 2013
- 19) 青木幹太, 榊泰輔, 坂井英治: 希望のあかりプロジェクト, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第44巻, p103-110, 2013
- 20) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 荒巻大樹: 地域産業プロモーションにおけるプロジェクト型教育の実際, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第45巻, p57-61, 2014
- 21) 青木幹太, 榊泰輔, 間間理: 希望のあかりプロジェクト2012, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第45巻, p63-69, 2014
- 22) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 荒巻大樹: 地域産業プロモーション2012—博多人形のり・デザイン—, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第45巻, p71-74, 2014
- 23) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の実践—宗像エリアのデザイン支援活動—, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第46巻, p77-86, 2015
- 24) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の実践—大川家具工業会との産学連携活動の推移とその成果—, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第47巻, p73-82, 2016
- 25) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の方法—導入期の活動から導かれたそれまでのデザイン教育との違い—, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第49巻, p65-70, 2018
- 26) 青木幹太, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 進藤環, 井上友子, 井上貢一, 岩田敦之: 長住大通り商店街ブランディング事業の経緯と成果, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第50巻, p63-73, 2019
- 27) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: 伝統工芸品産業の振興を目的としたデザイン支援活動—博多人形の商品開発とプロモーション活動—, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第51巻, p57-68, 2020
- 28) 青木幹太: 地域産業振興に向けたマーケティングと商品開発, 九州産業大学産業経営研究所研究叢書「九州マーケティングの探求」(山本久義・平野英一編著), 九州大学出版会, p67-110, 2013

プロジェクト型デザイン教育・研究のロードマップ | 産学連携プロジェクト

平成15年 平成16年 平成17年 平成18年 平成19年 平成20年 平成21年 平成22年 平成23年 平成24年
2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012

2003年4月
●九州産業大学
芸術学部 | 着任



株式会社NIKKENとの
産学連携でバイオチ
ェアの商品デザインに取
り組む

プロジェクトに参加し
た2名の学生がトヨタ
車体株式会社、トヨタ
紡織株式会社に採用さ
れる

*実践型デザイン教育の可能
性を実感

●シューズデザインプロジェクトスタート

株式会社ムーンスターとの連携



2006

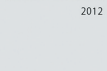
2007

2007

2008



2011



2012

*2007年以降株式会社ムーン
スターに採用される学生が増える

*学生デザインの子供
靴が商品化される

●博多人形プロジェクトスタート

博多人形工業協同組合加盟の工房等との連携

●博多織プロジェクトスタート

博多織工業組合加盟企業
との連携



2007

●カジュアルバッグのデザイン



2008

●雑貨のデザイン



2012

●デザイン思考を博多人
形に展開

2009

●帯柄のデザイン

●大川プロジェクトスタート

協同組合 福岡・大川家具工業会との連携



*学生が男女のチームに分かれて家具デザインに取り組む

2012

| そのほかの活動

●半纏プロジェクト

宮田織物株式会社との連携



2011-2012



●電動介護ベッド開発プロジェクト

株式会社ブラッツとの連携



*現状調査、企画案提示



2009-2011

●果汁ラベルデザインプロジェクト

有限会社ハーバルサンケイとの連携



2011-2013



フラッグシップボトル



スーパーマーケット仕様



贈答品仕様

●日本デザイン学会特別賞 | 受賞

*「プロジェクト型デザイン教育と地域産業プロモーション活動に関する一連の共同研究と実践」に対して(2017.10.13)

平成25年 2013 平成26年 2014 平成27年 2015 平成28年 2016 平成29年 2017 平成30年 2018 令和元年 2019 令和2年 2020 令和3年 2021 令和4年 2022

●ムーンスター本社での最終報告会 2013

●スニーカーデザイン 2014

●アサヒシューズ株式会社との産学連携がスタート 2022

*株式会社ムーンスターとの連携プロジェクトは、ご担当者が移動され2017年で中断している。活動を通して、実践的なデザイン活動のほか、工場見学や足形測定、販売体験など多くの学びの場の提供を受けた。スタート後、シューズデザインを志す学生の受け皿となって頂くとともに、産学連携の在り方や進め方を学ぶ機会を頂戴したことを感謝している。

●DIY商品の展開 2014

●東京ミッドタウンデザインハブで展示 2013

●PRお福さん 2015

●博多人形観光大使プロジェクト 2018

●G20財務大臣・中央銀行総裁会議歓迎お福さん 2019

●博多人形プロモーションプロジェクト 2018

●卒業記念品プロジェクト *2016年度より博多織、小倉織、久留米織の順で学生デザインの名刺を制作 2015

*工業会と夏季合宿を実施 2017

2016 2017 2018 2019 2020 2021

プロジェクト型デザイン教育・研究ロードマップ-2 | 学部連携プロジェクト

平成15年 2003	平成16年 2004	平成17年 2005	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

●総合せき損センターとの共同研究



●起立・歩行訓練装置 2006

2009

2011-2012

●テクノアートプロジェクト



2010

2012

●理工学部との連携プロジェクト

●ロボメカデザインコンペ



2007

*最終プレゼン 2008

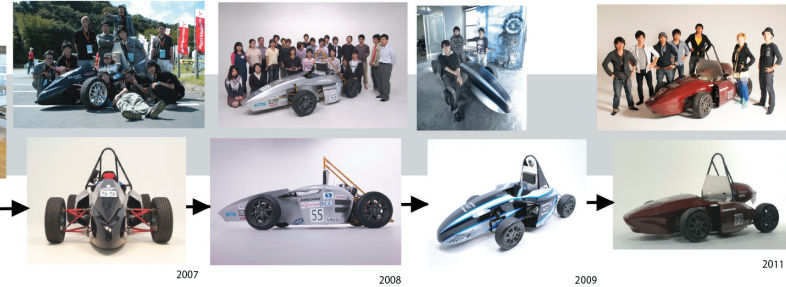
2011-2012

●理工学部との連携プロジェクト

フォーミュラカー開発プロジェクト



2009



2007

2008

2009

2011

●理工学部との連携プロジェクト

専用パンフレット制作



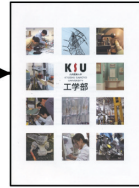
*2007年 | 表紙



*2008年 | 表紙



*2009年 | 表紙



*2011年 | 表紙



*2012年 | 表紙

*理工学部との連携活動の中で、学部を紹介するパンフレットの制作依頼を受け、プロダクトデザイン学生のグラフィック能力向上を目的に対応した。

| そのほかの学部連携

●理工学部との連携プロジェクト

EVにおける複数車軸間の協調制御の研究

2010



●商学部との連携プロジェクト

九州マーケティング

2011-2013

*地域産業振興に向けたマーケティングと商品開発というテーマで博多城の現状と新商品開発について論述



平成25年 2013 平成26年 2014 平成27年 2015 平成28年 2016 平成29年 2017 平成30年 2018 令和元年 2019 令和2年 2020 令和3年 2021 令和4年 2022

●HRRC (ヒューマン・ロボティクス 研究センター開設)

●JR博多シティ3F改札口フリースペースに展示 (2013)

●歩行支援ロボット (2014)

●パワードスーツ (2015)

2015-2017

●福岡市科学館で発表と展示 (2019)

*テクノアートプロジェクトはHRRCの教育活動として理工・芸学の連携授業として実施

2013

2015

2017

2019

*2013年 | 表紙

*2014年 | 表紙

*2015年 | 表紙

*2015年以降は外部に発注

●理工学部との連携プロジェクト
SMA患者の利用を想定した電動ストレッチャーの開発

2011-2016

●国際文化学部との連携プロジェクト
歴史をデザインする | 歴史をわかりやすく伝える

2019

プロジェクト型デザイン教育・研究ロードマップー3 | 地域支援プロジェクト

平成15年 2003	平成16年 2004	平成17年 2005	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

●福岡県工業技術センターとの連携

デザインブラッシュアップ講座スタート



2011-2013年は座学を中心とした講習de、2014年より実践重視の講習に変わる

2011-2013

*初年度は企業8社が大川の家具メーカーが参加し、2012年からの大川プロジェクトに繋がる

●宗像プロジェクト

*幹工房の商品デザインが始まり



2012

●福岡市東区の地域支援プロジェクト

●海の中道海浜公園ユニバーサルデザインチェック

*身体に障がいがある子供さんと協力して海中のバリアを発見し改善提案を行う活動



*公園全エリア調査



2014 *木工工作室の調査



2015



*チェックシートを用いた改善状況等の調査

項目	調査結果	改善提案
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

*調査した学生から改善提案を提示



*現地取材とワークショップ形式による問題点の洗い出し



2017



*公園内の案内情報の現状と提案

2019

●かしいかえんエンドレスプロジェクト

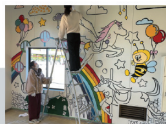
*2021年12月30日で閉園する「かしいかえん」の記念オブジェ制作等西日本鉄道株式会社からの依頼

●東区芸術文化祭



*博多人形、博多張子の作品展示

2021



*東区の小学生と学生が園内の壁面にメッセージ壁画を制作



*西鉄駅構内に学生デザインの記念碑が設置



プロジェクト型デザイン教育・研究ロードマップー4 | 東日本大震災支援活動 | 活動成果の展示・公開

平成15年 2003	平成16年 2004	平成17年 2005	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

2011.3.11東日本大震災



●希望のあかりプロジェクト

*福岡在住の三上真輝氏（「ねぶた」制作の第一人者）の協力依頼を受けて、ねぶたによる被災地支援活動を始める

2011



*三上氏からねぶた制作の指導を受ける



*福銀本店広場での予行会

2012



*日田千年あかりでの予行会



*陸前高田市の幼稚園、高齢者施設等を訪問 | ねぶたで東北の民話「さるかに合戦」を演出



*陸前高田市の幼稚園、高齢者施設等を訪問 | クリスマス活動

●博多織プロモーション

*美術、デザイン、写真学科と博多織企業が連携したプロジェクト活動。「九産大プロデュース」へ発展

2008

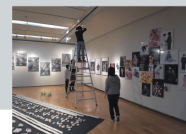


*活動成果は「絹鳴展」として2009.2.10-2.14の期間、円形ギャラリーで展示・公開

2009



*NHKギャラリーで中間展示 (2009.10.6-10.12)



*福岡アジア美術館で年間の活動成果を展示

2010

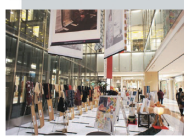


*アクロス福岡で中間展示 (2010.10.25-10.31)



*九州国立博物館で年間の活動成果を展示 (2011.3.8-3.13)

2011



*アミュプラザ博多で年間の活動成果を展示 (2012.12.18-2.26)



平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019	令和2年 2020	令和3年 2021	令和4年 2022	
2013 冬  <p>*キャナルシティでの予行会</p>		2013 夏  <p>*陸前高田市の幼稚園 段ボールで秘密基地を制作</p>		2014 		2015 		2016 		
 <p>*陸前高田市の高齢施設 ねぶたでクリスマスツリーを制作</p>		 <p>*陸前高田市米崎中学校仮設住宅の方々と米崎名産のりんごをねぶたで制作し、盆踊り会場を飾る</p>								
				 <p>*陸前高田市の幼稚園、高齢者施設等を訪問して交流を続ける</p>						

2012 地域産業プロモーション	2015-2021 九産大プロデュース							
 <p>●天神イムズ (2013.2.26-3.4)</p>	 <p>●天神イムズ (2014.2.20-3.1)</p>							
 <p>●天神イムズ (2016.2.18-3.6)</p>	 <p>●天神イムズ (2017.2.23-3.5)</p>							
 <p>●天神イムズ (2018.2.22-3.4)</p>	 <p>●天神イムズ (2019.2.21-3.3)</p>							
 <p>●天神イムズ (2020.2.20-3.31)</p>	 <p>●天神イムズ (2021.2.18-2.28)</p>							
 <p>●天神イムズ (2021.2.18-2.28)</p>	<p>*2015年より展示と並行してKSUショップを開設し、成果物を販売</p> <table border="1"> <tr><td>●販売額</td></tr> <tr><td>2015年度 ¥353,450</td></tr> <tr><td>2016年度 ¥499,203</td></tr> <tr><td>2017年度 ¥292,504</td></tr> <tr><td>2018年度 ¥306,992</td></tr> <tr><td>2019年度 ¥273,100</td></tr> <tr><td>2020年度 ¥205,290</td></tr> </table>	●販売額	2015年度 ¥353,450	2016年度 ¥499,203	2017年度 ¥292,504	2018年度 ¥306,992	2019年度 ¥273,100	2020年度 ¥205,290
●販売額								
2015年度 ¥353,450								
2016年度 ¥499,203								
2017年度 ¥292,504								
2018年度 ¥306,992								
2019年度 ¥273,100								
2020年度 ¥205,290								

●プロジェクト展

 <p>●アクロス福岡 (2012.3.8-3.11)</p>	 <p>●アクロス福岡 (2013.3.20-3.24)</p>	 <p>●アクロス福岡 (2013.3.20-3.24)</p>	 <p>●JR博多シティ3F 改札口側フリースペース (2014.3.26-3.31) 2015年より「九産大プロデュース」に合体</p>
--	---	---	--